

脳神経外科後期研修プログラム

I 脳神経外科後期研修プログラムの概要

脳神経外科の後期研修プログラムでは、主に頭部外傷、脳血管障害、脳腫瘍、脊椎脊髄疾患など脳神経外科全般にわたる幅広い研修を行う。わが国の国民病である脳卒中全般の診療能力を研修内容に含め、脳神経疾患の common disease に対する診療が可能となる研修を目標とする。

II プログラムの基本理念と目標

患者さんやスタッフに信頼される医療人としての人格形成と、優れた実力のある脳神経外科専門医の養成、特に手術手技の習得に重点をおいている。専門医前に修得すべき手技、研修内容を定め、その修得を目標とする。修得とは、一人で自信を持って診療を行えるレベルをさす。

III 手術実績（2007年～2014年）

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
手術総数	153	152	148	149	132	160	153	131
主要手術	48	29	26	23	33	33	25	17
脳動脈瘤	29	19	23	8	10	17	17	12
脳動静脈奇形	0	0	0	1	0	0	0	0
脳腫瘍	19	10	3	15	23	16	8	5
外傷性頭蓋内血腫	3	17	13	4	8	11	12	11
脊椎脊髄手術	16	10	9	9	16	11	16	13
頸動脈内膜剥離術	6	4	0	4	6	10	5	7
脳内血腫除去術	14	9	21	12	12	17	6	7
慢性硬膜下出血	18	18	37	59	34	54	37	33

IV 研修指導医

土本 正治 院長

（岡山大学 昭和 50 年卒）専門医資格：日本脳神経外科学会専門医
大同 茂 脳神経外科医長

（岡山大学 平成 8 年卒）専門医資格：日本脳神経外科学会専門医
岩戸 英仁 脳神経外科医長

（岡山大学 平成 10 年卒）専門医資格：日本脳神経外科学会専門医

V 診療、検査、処置、手術手技修得目標（専門医試験受験資格）

1) 3-4年次

救命救急やICUなどの幅広い院内業務を研修の一環とし、急性期医療において中核的な役割を果たせる医師となることを目的とする。

（診療、検査、処置）

- ① CT、MRIなどの正確な読影ができる。
- ② 脳血管撮影が学独で施行できる。さらにその読影ができる。
- ③ 脳神経外科で行う全ての処置を初期臨床研修医に対して指導する。
- ④ 患者の検査、手術計画を含めた治療計画を立案し、指導医に進言する。

（手術手技）

- ① 穿頭術；慢性硬膜下血腫、脳室ドレナージができる。
- ② シャント手術；指導医のもと脳室腹腔シヤント術、腰椎腹腔シヤント術ができる。
- ③ 指導医のもとテント上下のmajor手術の開頭閉頭ができる。
- ④ 指導医のもと急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫の手術ができる。

2) 5-6年次目標

（診療、検査、処置）

- ① 患者家族に指導医と共に責任を持って治療の内容を説明する。
- ② チーム医療の一員として、看護師やコメディカルと協力し円滑な病棟運営を行う。

（手術手技）

- ① 指導医のもと脳内血腫除去術を手術顕微鏡下で行う。
- ② 脳手術；指導医のもと手術顕微鏡下でシルビウス裂開放を行う。脳腫瘍手術の一部を指導医のもとで行う。
- ③ 脊椎；指導医のもと椎弓切除・椎弓形成術、頸椎前方アプローチを行う。
- ④ 専門医研修手帳に準じ、実績を記録する。

VI 研究、研究指導

臨床研究を行い、日本脳神経外科学会関連学会にて発表する。初期臨床研修医が行う学会発表の指導を行う。学術論文を執筆する。

VII 後期臨床研修の最終目標

脳神経外科後期臨床研修4年を経た時点で日本脳神経外科学会専門医試験の受験資格が得られる。その資格試験に合格することが最終目標である。